

発行/村山市議会 編集/議会だより編集委員会

ぎかいだよりむらやま



写真/
若手でがんばるVOL.4
『パーパー・ヤマグチ』山口壮一さん

<http://www.city.murayama.lg.jp> 携帯からはコチラ→



人口減対策に重点 117億5千万円

(平成27年度一般会計予算)

特別会計含む総額 202億69万円

可決

平成27年第1回市議会定例会は、3月2日招集され3月19日までの18日間ひらかれました。

今回の議会では、新年度予算のほか、平成26年度一般会計補正予算として地方創生関連予算など補正予算7件、条例15件第5次村山市総合計画基本構想などを合わせて33件の議案を審議、原案のとおり可決しました。

また、最終日に、議員提案により、議会改革検討特別委員会の結果を踏まえ議員定数を1名減とする議員定数条例の一部を改正する条例が提案され原案のとおり可決されました。なお請願第1号消費税増税の中止を求める請願は不採択となりました。

国の経済対策による地域市民生活等緊急支援交付金1億6千万円が平成26年度予算に前倒し

①子育て応援すくすく手当支給事業 480万円
「第3子以降で3歳未満の子ども1人につき、

児童手当に上乗せして月額5千円支給」

②子育て支援医療給付事業 9千389万円
(3月補正含む)

「6年生まで対象の外來医療費の無料化を中学3年生まで拡大」

③子育て応援定住促進対策事業

「若い世代の定住促進に向け、住宅新築に最高100万円補助。中学生までの子どもを育てている世帯が市内に住宅新築に対して50万円補助。土地購入で25万円、さらに市内の業者を利用すると25万円を上乗せする」

④クアハウス基点熱源再生可能エネルギー導入事業 1億7千258万円
「温泉熱を利用した冷暖房システムの導入」

⑤防犯街路灯LED化推進事業 600万円
「防犯灯約2千300基をLED化する」



平成27年度予算執行、事業方針について

各分科会で議論伯仲

各事業に対し、強い要望意見が出された。

(総務分科会)

○第5次総合計画の初年度にあたり、特に人口減少対策に重点をおいた予算として評価できるが、財政の硬直化が懸念されるなか、行政改革の継続や経費の削減に一層努力を望む。

○税金は基本となる歳入であることから課税客体の把握、収納率の向上を図ること。

○防災備蓄は各地区に必要であること。

○住民基本台帳カードの加入率が低く、有効に活用されていない現状と思われる。国の動向

を見ながら、市独自の利活用を検討されるよう望む。

○定住促進のための窓口対応のPRについて、他の事例も研究しながら担当課とも連携して進めることを望む。

○新年度新たに税の徴収アドバイザー制度を設けるようであるが、滞納の未然予防も検討すべきである。

○地方創生推進組織を考へられているが定住対策、空き家バンクの設置も検討を望む。

(文教厚生分科会)

○福祉
○新年度から2課制へ移行するがそのメリットを活かし、特に子ども・子育て支援を重視すること。

事業量が年々増加していることから、社会福祉協議会や医師会、民間と連携して事業運営を進めること。

○戸沢保育園は、平成28年度から指定管理制度に移行する計画であるが保護者への説明を十分行うこと。

◎保健

○健康寿命を延ばすため本年度からガン予防のため30歳代の若年検診が実施されるが、受診率向上に努めること。

○子どもたちの健康を守るため新年度から中学生のピロリ抗体検査費用の助成を評価する。

○地域資源を活かした体験型の健康増進事業を推進するように望む。

◎学校教育

○新規に授業改善等アドバイザーが配置され、はじめ、学力向上に努めるが関係機関との連携を望む。

◎生涯学習

○基点周辺を新たなコースとして復活する市民マラソンについては期待している。

(産業建設分科会)

◎農林

○今年度より設置された農地中間管理機構は、担い手不足の解消や耕作放棄地の解消から、その役割は重要である。今後はスイカなどの振興と合せて畑の集積についても検討を望む。

○道路、鳥獣被害対策についても何らかの対策を望む。

○湯舟沢と五十沢地区をつなぐ林道整備事業は、60年以上の懸案事業である。これまで地区を離れた人たちが戻って来るような施策を望む。

○グリーンツーリズムについては、村山市には、農村、農業の魅力が多くある。その情報を積極的に発信することを望む。

○建設
子育て応援定住促進事業や住宅リフォーム支援事業については、制度が分かりやすいようにすることを望む。

◎環境

○村山コンポストリサイクルセンターの臭気対策については、企業に対する指導徹底を望む。

○商工
第5次村山市総合計

画基本構想でも「913万人のファンづくり」をうたっているが、ふるさと納税の他に仙台村山会、東京村山会、関西村山会の会員を利用し、ふるさと便として村山市の特産品を贈る仕組みの検討を望む。

○産業振興については、機械金属工業関係の充実が欠かせない。地場産業の育成は勿論、思い切った企業誘致を望む。

○観光
観光のため来客した人が市内に宿泊できるように、クアハウス基点の旧浴場の活用など、年次計画を立て、健康と観光の両面からのサービス、リピーターに対する施策の検討を望む。

○商店街活性化事業は徳内まつりを含めてマンネリ化を防ぎ、常に新しい企画を望む。



第5次村山市総合計画

(まちづくり10年の展望)

基本構想 可決

村山市のまちづくり10年を展望する第5次村山市総合計画の基本構想が可決された。

市長から委嘱された各団体の代表など24名からなる総合計画策定審議会は、市長からの諮問に基づき、昨年5月8日以来5回にわたり審議し、今年2月13日に末永茂会長から市長に答申があり、今議会に提案された。

基本構想は、時代の架け橋プランとして「ほどよい田舎」をまちづくりの基本理念としている。村山市の直面する重要課題に定住促進、楯岡高校跡地活用と中心市街地の再生、高速道開通後のまちづくりを掲げ、下段の5つを基本目標に挙げ、それぞれ具体的な政策を示している。

【総合計画とは】
総合計画は、村山市の計画で最上位のもので、今後10年でどんなまちを目指すのかを決める計画である。

総合計画は、基本構想基本計画、実施計画から

なり、このうち、基本構想は議会の議決を経て定められる。

【ほどよい田舎】

第5次総合計画の基本構想で目指す「ほどよい田舎」は。

- 便利で落ち着いたまち
- 住んでいる人がほっとできるまち
- 誰もがふるりに帰ってきたような雰囲気を漂わせるまち
- おもてなしの心が随所に垣間見えるまち
- 景観を守りながら、

【基本構想の基本目標】

- 基本目標1 だれもが暮らしたいまち
- 基本目標2 「つながる」産業振興
- 基本目標3 913万人のファンづくり
- 基本目標4 いのち輝き、ふるさとを愛する人を育むあたたかいまち
- 基本目標5 みんなが参画、みんなで創造

しっかりとした都市基盤を有するまち

次のようなまちを目指す。

【将来の目標人口】

また、10年後の平成36年度の目標人口を2万3千100人とした。国立社会保障・人口問題研究所が公表した推計人口は2万2千399人であるが、この計画による政策を進めることにより700人の増加を目指す。

【議員の発言】

- 基本理念については、村山市の将来像を示す重要な事項であり村山市の将来像が分かりやすいこと、独自性を有すること、施策の大綱に合致するものであること、の要望があった。
- 村山市総合計画について市民の考えを尊重しつつ、専門家の意見を採り入れながら計画を進めるよう要望する。
- コンセプト「ほどよい田舎」は10年後の村山市を考えた場合に真に相応しいものか十分に

検討されるよう強く求める。



【可決された主な条例】

- 〈教育委員会制度改正〉
- 教育大綱は市長が策定
- 教育長は教育委員長と教育長を一本化
- 新教育長は特別職
- 市に総合教育会議設置
- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、教育長が教育委員でなくなり、特別職としての教育長とする制度改正により、関係条例を整備した。

- 村山市特別職に属する者の給与等に関する条例等の一部を改正
- 教育長給料月額56万円
- 村山市保育所設置条例の一部改正
- 保育所の指定管理者制度を導入する。
- 村山市特定教育、保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例
- 子ども・子育て支援法により保育施設などの利用者負担額が決められた。関係法律の施行に伴い指定介護予防支援等の事業に関する基準も定めた。
- 村山市課設置条例の一部改正
- 政策推進課に地方創生係を新設
- 福祉事務所を2課制に福祉課、子育て支援課に。
- 環境課を市民課に統合し、市民環境課に。
- 下水道係は、水道課へ。



金谷工業団地

【人事案件】
 ○人権擁護委員候補者の推薦の同意
 村山市大字富並九四二番地 大場ちが子（再推薦）

【地方創生先行型予算関連等補正】
 今議会に、補正予算7件も上程され、原案の通り可決された。
 このうち、一般会計の主な補正は、次のとおりである。
 ○地方創生先行型交付金事業
 *子育て支援医療給付事業 1千500万円



楯岡笹田のソーラー施設

- *子育て応援定住促進対策事業 2千万円
- *目的別商品券発行事業 2千285万円
- *むらやま旅行商品券発行事業 2千万円
- *むらやま子育てあいある商品券発行事業 2千万円
- 以上5件は、平成27年度に繰越して使用される。
- 駅西財産購入費（土地開発公社所有地） 1億5千668万円

審議結果報告

(3月定例会において賛否の分かれた議案についてのみ掲載しました)

議案等の名称	議員名	議決結果	市政クラブ						青風会	日本共産党 村山市議団	無党派			賛成	反対			
			井澤秋雄	長南誠	鈴木健治	森一弘	秋葉新一	柴田好美	茨木久彌	佐藤敏彦	布川淳一	川田律子	中里芳之			佐藤昌昭	大山正弘	海老名幸司
市長提出 予算	平成27年度予算（9件） 一般会計・国民健康保険事業・公共下水道事業 財産区・農業集落排水事業・土地区画整理事業 介護保険事業・後期高齢者医療事業・水道事業	可	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	11	2	
	村山市保育所設置条例の一部を改正する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	11	2	
条例	村山市介護保険条例の一部を改正する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	11	2	
議員提出 2号議	村山市議会議員定数条例の一部を改正する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	11	2	
請願 1号	消費税増税の中止を求める請願書	否	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	議	2	11

正副議長及び監査委員は会派に属しません。議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。

=可決
 =否決
 =賛成
 =反対
 =欠席
 =退席

ここが

聞きたい

一般質問

Q&A

本定例会の一般質問は3月4日・5日に7人の議員が行いました。

質問と答弁を内容を要約してお知らせします。

※一般質問のQ&Aは議員の原稿をそのまま掲載しています。



学校給食アレルギーの対応は

長南 誠 議員

Q 学校給食アレルギーによる死亡事故が起きている。本市の状況と対応について伺う。

A 調査は毎年1月に実施。医療機関で受診しアレルギー診断を受けた児童生徒は66名、給食に配慮が必要者は19名いる。小学校が除去食、中学校は代替食で対応、調理は作業前に献立調理工程、食物アレルギー対応カードを確認し、できた食事は校長が検食で確認し提供。配膳は該当食器にラップ蓋をし記名、担任が手渡しする。お代わりはしないように指導している。

Q 血圧低下や意識を失う「アナフィラキシーショック」発症の場合、共通認識のもと統一した処置が重要である。対応マニュアルと緩和剤エピペンの対処法を伺う。

A 医師会の指導で作成した学校生活管理指導表を通し家庭、主治医、学校医が点検し対応している。エピペン処方受けている児童生徒は学校へ持参し保管、いつでも使用できる。医師を招いて教職員の実施研修も実施している。

Q 疾患を持つ子どもへの配慮、健常者への指導はどのようにしているか伺う。

A 該当児童生徒が在籍する学級で指導を行い、理解した上で給食が行われている。トラブルは今まで起きていない。



学校給食のようす



公共施設の維持・管理・整備計画を 早急に

佐藤 敏彦 議員

Q 第5次村山市総合計画で、公共施設等の老朽化対策を課題のひとつとしてあげているが、限られた財源の中で、若い世代に負担を残さない効果的な対応を望む。具体的にどのように考えているか。①現状と実態は。

A ②基金等の活用運用を含めて、計画作りは。③新たに整備する施設の必要性、ランニングコスト、資金計画等は。④老朽化した公共施設の廃止、解体はどうするか。

①建物、道路、橋、上下水道等市で所有



築約40年になる西郷地域市民センター

している公共施設の維持管理費は、平成25年度4億6千万円、26年度3億2千万円になっている。②平成27、28年度、各施設を点検して活用方も含め計画を立てて進める。③十分に検討する。④住民の理解を得ながら進める。

Q 小中学校の「道徳」が18年度に、教科外から教科にする改訂案を文科省が発表した。その概要及び課題についてどの考えているのか。①道徳性をどのくらい身につけたかが評価されるようになるようだが、その課題は。②教員の技術の充実。③家庭、地域での道徳教育の必要性は。

A ①数値による評価はむずかしい。文科省の動向を見て取り組みたい。②授業研究など充実したい。③GOGOプランを進め、連携を深めて行いたい。



楯高跡地活用 地方創生戦略として

井澤 秋雄 議員

Q 楯岡高校跡地活用を中心として周辺の都市計画道路の整備など中心市街地の活性化を図り循環バスで地域と中心部を結びアイデアを地方創生として取り組めないか。

A 楯高廃止による経済損失を補うためにも跡地活用として学校関係が良いと考えている。70校の大学にアンケートを依頼したところ興味を示している学校もある。地方創生も含めて検討したい。循環バスについては規制もあり難しいと思うが検討してみたい。

当面、楯岡小学校改築に伴う仮校舎として活用したい。これについては県の了解を得ている。

Q 自分の応援したい自治体に寄付する「ふるさと納税」制度が話題になっている。

A 村山市としても村山を知ってもらう方法など特

徴のある返礼も考えて地方創生につながるものを考え、推進していくべきでないか。



待ち望まれる 楯岡東根温泉線の北進延長

Q ふるさと納税の趣旨にあったもので特徴のある制度を検討しているところである。

A 人口減少社会における総合計画は、特に

政策の優先順位を透明化し、市民の理解を得て運営していくべきである。今回提案している第5次総合計画における基本構想は、特に若い人の考えも反映されていると思っている。



市は環境保全協定の当事者としての責任を果たせ

中里 芳之 議員

Q ①アシストの行為は環境保全協定に違反すると認めるか。②無届け放流を行政が確認した後、一か月間、正規の放流口からとはいえ安全性未確認の水の放流を許したことは反省すべきではないか。③新たに協定を結ぶべきではないか。④二期工事でシートをはった業者を相手取りアシストが訴訟を起こしている。一期工事も、破損が疑われる文書がある。事の真偽を行政として調査すべきではないか。

理由は何か。②民間委託でなぜ「保育の質の向上」が図れるのか。③民間委託にすれば、保育や給食の直接の責任を負うのは委託業者。どうやって質や安全性を担保するのか。

A ①平成22年3月策定の市第2次集中改革

プランに沿って進めている。②（答弁なし）③民間にしたからといって質が落ちるとは考えない。
Q 米価下落対策として市独自の支援策を。
A 国が一生懸命手を打ってくれるので、独自支援は考えていない。

Q ①戸沢保育園の保育と、楯岡小・袖崎小の給食を民間委託にする



平成28年度から民間に委託されようとしている戸沢保育園



高すぎる介護保険料、一般会計からの繰入を

川田 律子 議員

Q 第6期介護保険事業計画が策定されたが中でも関心は第1号被保険者の介護保険料。改定毎に引き上げられてきたが、このたびの保険料はいくらになるのか。

A 第5期の6段階から9段階に区分し、低所得者への軽減を強化するが、基準月額保険料は4千600円となり年額で1万2千円引き上がる。村山市で一番多い第4段階は2千988円から4千140円となり年額で1万3千824円の引き上げとなる。

Q 今年の4月からマクロ経済スライドが発動され、年金が上がらないしくみの中で、これ以上の負担は市民には限界である。一般会計からの繰入の考えは。

A 対象者も増え施設も増える中でやむを得ない引き上げである。基金も半分取りくずしてい



特養ホームのデイサービスのようす

る。特別会計としてやっていく。

Q 村山市は自治体としては県内で初めてひとり親家庭を対象とした子どもの自立支援事業に取り組んでいる。東部地区と西部地区の2か所で47名の児童・生徒、15名の学習支援員のサポート

で成果を上げていると聞く。貧困の連鎖を断ち切る施策として、専門学校や大学進学への道を開く給付型の奨学金の考えは。
A 奨学金制度については、基本は返済の方向でいろいろ検討していきたい。



第5次計画における人口問題・定住対策は

茨木久彌 議員

Q 第5次総合計画による人口減少及び定住人口の対策は。

A 第5次計画の最終年計は、2万2千399人となりその中で生産年齢者（15才から64才）が半分の程度に減少する。この年齢層の増こそが村山市の活力になり少子高齢化の改善となり第5次総合計画の大きな課題と捉え実施計画に取り組んでいく。

Q 流雪溝整備に伴う水源調査の状況について。

A 市内全域の水源地の調査の結果、概略として流雪溝の出来る可能性のある所は12路線9・6kmを見込んでいる。この中で新年度は1か所について実施計画を予定している。



流雪溝の整備なった住宅地

Q 子育て応援定住補助金制度中に住宅新築のため宅地を購入した場合、新たに25万円を補助する。子育て世帯が土地を買い家を建てる場合最大100万円の補助金となる。

A 現在、各学校で引き続き地域素材を活かした学習を実施している。これからも学校、地域とともに「私の住んでいる村山が大好き」という郷土を愛する心を育んでいきたい。



「居合」を村山市観光行政の目玉に

森 一弘 議員

Q 現在は、多彩な観光形態を求めるようになり、外国人を含めたグローバル観光の時代だ。当市のホームページには、外国語表記がない（県13市中7市は英語等の表記あり）観光インフラ整備を進めるべきでは。

A 居合道は村山市が発祥地。武道は海外に広く知れ渡っている。この埋もれた観光資源「居合」で市の活性化をすべきでは。

Q 国土調査は市の41%が未調査で、山林は手付かずの状況。境界が

A 居合道は目玉になる。観光と考えている。居合神社周辺環境等ふくめて研究していく。ホームページの外国語表記が大変遅れていた。どの様な訳の表記がいかを含め観光インフラがどうなっているか、どうすればいいか調査研究させる。



小学校 体験学習

Q 小学校で琴など特色ある体験活動を実践発表している。子ども達

A わかる人がいなくなっていく。国への働きかけを含め、早めの対応をすべきでは。

A ひじょうに難しい問題だ。どうやっていくべきかが課題だと認識している。

A 市の芸術祭での発表など伝統等各校の取り組みを広く知ってもらいたい。「子の心親しらず」での発表を考えている。

議員定数16人に。

市民参考人22人の

意見を聴取

初めに

村山市議会は、平成23年10月に議会基本条例を制定以来、開かれた議会、活性化した議会を目指して来ました。そして平成26年度において議会改革検討特別委員会を設置し、次の5項目について検討を進めてきました。

- ① 議員の定数と報酬。
- ② 常任委員会の再編および定数について。
- ③ 一般質問における一問一答方式の導入について。
- ④ 議会報告会のあり方および内容について。
- ⑤ 災害時の議員の行動指針について。

その中で、特に①の議員の定数と報酬については喫緊の課題であるとして、3月議会において決定することとなりました。残る②から⑤の課題については、4月の市議会補欠

選挙が終了後、新しい議員が揃ってから決定する事になりました。

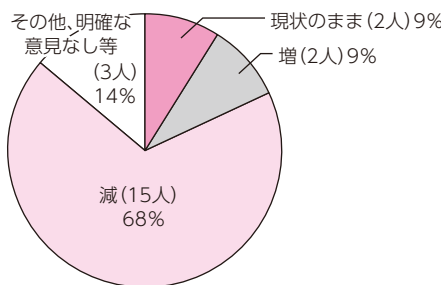
参考人意見聴取と議員間討議を実施

村山市議会初めての参考人意見聴取は、初めに記した①から⑤の課題について、広く市民の代表をお招きし、意見を聞くものです。

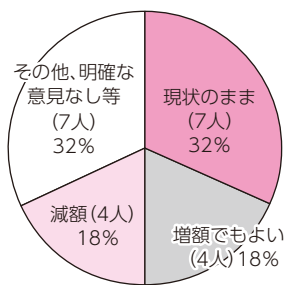
市民各層から老若男女様々な世代を抽出。また地域や各種団体の推薦など22人の方々に集まっていたいただき、ご意見を伺いました。

議員定数についての参考人の意見のうち、68%の方が減員を望んでいました。報酬については、半数の方が現状または増額でした。減額は18%となっていました。

議員定数に関する参考人の方々の意見



議員報酬に関する参考人の方々の意見



有識者の講演を聞きました

今回の議会改革に沿った有識者の講演会を開催しました。いずれも地方議会に精通されている方で、明治大学政治経済学部講師の廣瀬和彦氏と、山形大学人文学部教授の金子優子氏のお二人でした。

廣瀬氏の講演は多くの市民の傍聴もあり、市民と一緒に考える良い機会だったと思います。



山形大学で金子教授の講演会

決定までのプロセス

参考人の意見や有識者の講演を聞き、数回にわたり議会改革検討特別委

員会を重ねて、議会各会派間での協議を重ねて来ました。

また初めて開催された議員間討議は、会派にとらわれず、議員一人一人からの意見を述べてもらい、自由討議を行いました。

しかしながら議員定数については、各会派で折り合いがつかず、「現状維持の17名」「1名減の16名」「2名減の15名」の3案に分かれました。

結局、3月2日の特別委員会において、採決に持ち込まれ、1名減の16名に可決され、委員会としての結論となりました。そして、3月議会最終日の本会議場での採決となり、正式に11月から16名の定数と決しました。なお、報酬については、現状維持に決定となりました。

これまでの意見から

◆市民の声から

参考人の方々の意見では、同規模の自治体を考えた時に減員はやむなしと言う意見や、8地区があるので、16名が良い。また人口減少はあるが、地域の声を届けるにはそれなりの人数が必要である。などの意見が出されました。

報酬については、財政が厳しいのであれば、減額すれば良いとの意見が出た一方、若い人たちが立候補出来るような環境を作るべきで現状維持か増額が望ましいとの意見が出ました。



参考人意見聴取

◆議員の意見から

◎現状維持（17名）を望む意見として、議事機関、立法機関、監視機関、市民の声を反映するためにこれ以上定数を減らせば機能が果たせなくなる。（日本共產党村山市議員）

◎1名減（16名）の理由として、財政状況が厳しいが、大幅な減員は議員不在の地域を生み出し、郡部の声が届かなくなってしまう。議員の仕事は、チェック機能のみならず、地方の声を直接国に届けるなど多様化している点などを考え、定数削減は仕方ないが、1名減にとどめるべきだ。（市政クラブ）

◎2名減（15人）の理由として、人口減少や財政難などを考えて、また参考人や有識者の参考意見を考えて、議員同士が努力すれば15名でも可能である（青風会）

などの意見が出されました。

視察報告 百聞は一見にしかず

議会だより編集委員会

1月14日から15日、議会だより編集委員会は、埼玉県寄居町の視察研修を行いました。「お元気ですか寄居議会」は、平成25年度全国町村議長会広報コンクルの編集デザイン部門で、奨励賞を受賞しています。

寄居町は人口3万5千470人で、1万3千世帯に年4回発行しています。

編集は当選一、二回の新人議員を中心に作成していました。

特徴は議員の議案に対する賛否の公表です。また表紙の写真は統一テーマを設けて各議員が写真を持ち寄り選ぶとのこと。欄外には用語解説や一口メモなどを記載し、読みやすく親しまれる工夫が感じられる紙面でした。

今回の視察で得た部分については、村山市議会報でも積極的に取り入れて行きたいと思っています。



議会だより研修会

産業建設常任委員会

2月9日、建設課・環境課所管の管内視察を行いました。建設課関係では積雪および雪捨て場の状況を視察しました。今季最大積雪日は、2月9日現在楢岡48cm、西郷73cm、戸沢70cm、袖崎89cm。大高根131cmで昨年より少ない積雪です。

雪捨て場の状況は積雪量に比例し、園芸試験場ほ場跡地は6割、金谷運動場広場駐車場は6割、基点イベント広場は4割の利用状況でした。土砂やゴミなども多く混ざり、春先に近隣住民に多大な迷惑をかける粉じん処理を強く要望しました。

環境課関係は、(株)アシストを視察しました。法定基準に適合しない排水を無届放流口から流している状況を調査、視察しました。砂処理、活性炭処理稼働が一部しかなされず、市も県と協議し厳しい対応をすべきであると考えます。



園芸試験場村山ほ場跡地雪捨て場のようす

議会交流をしています。

今回は天童市と河北町でした。

議会交流会は、他議会常任委員会の内容などを研修し、議会運営に生かすことを目的にしています。

1月16日に開催された天童市議会との懇談会は、初めての懇談会でありましたが、人口減少対策、議会改革など活発な意見交換が行われました。6万2千人の都市でも中心部から離れる周辺地区の人口減少、ゴミの問題などがありません。

2月20日には河北町議会と交流しました。河北町とは毎年実施しておりますが、今年は主に議会改革と、除雪について話し合われました。村山市が掲げる「間口除雪」に関心が集まり、多くの質問が出されました。降雪地域では素晴らしい取り組みであるとの評価がありました。

市民の声



「そでさき元気っ子」代表
永井清隆さん

「そでさき元気っ子」は学校週5日制に伴い地域の子も達に遊びや体験の場を与え地域で子どもを育てていこうと平成14年5月から活動を行っています。

「地域の子もは地域で育てる」を合言葉に普段の生活では

体験出来ない様な事、川に放流した魚を手で捕まえる「雑魚へめまつり」、流れ星を探す「流れ星を見る会」「星空観望会」、生の落語を聞こうと真打による「落語会」、車のチューブで雪上を滑る「チューブスライダー」「駄菓子屋学校」「スキー教室」等々行っております。

袖崎に住めば楽しいことがいっぱいあると思われる地域にする為に、地元で定住してくれる人が少しでも増えてくれる様に微力ながら頑張っていきたいと思っております。

最後に「そでさき元気っ子」には地元だけでなく他地区からの参加も大歓迎です。是非遊びに来てください。



〈表紙写真〉

楯岡晦日町バーバー・ヤマグチ五代目山口壮一さん（33歳）、大好きな商店街にあるお店を誇りに感じます。自分の子どもが地元商店街を大好きになることです。頑張ります！



議会報告会のご案内

1、平成27年4月27日（月） 午後7時より

- 大倉地域市民センター
- 戸沢地域市民センター

2、平成27年4月28日（火） 午後7時より

- 袖崎地域市民センター
- 大高根地域市民センター

皆様！多数の参加をお待ちしております。



第6回

議会だよりクイズ解答

Q1：市制施行何周年でしょうか？

正解 ② 60周年

Q2：平成26年12月執行された衆議院議員選挙村山市の投票率は？

正解 ③ 60.5%

正解者の中から当選者3名の方にクアハウス基点入浴券をプレゼントいたしました。今回の議会だよりクイズはお休みいたします。

委員長
副委員長

大川 秋葉 長南 佐藤 井澤
正弘 律子 新一 誠 淳彦 敏彦 秋雄

議会だより編集委員会